

こども屋台の参考案

先生の願いの例：子どもが相手の立場や条件を考え、自分たちで選び、試し、考え直す経験をつくりたい。

対象・使う場面	小学4年生～高校3年生を想定。総合・探究、教科、特別活動などとのつながりを学校と検討する。
子どもが考え、決める場面	届けたい相手、商品候補、仕入れ、価格、役割、結果を踏まえた改善。大人は判断材料を用意する。
学校が選ぶ学習目標の例	理由をもって選ぶ、相手の立場で考える、協力して決める、結果から考え直す。今回の重点を絞る。
先生が検討できるもの	事前学習・実践・振り返りの流れ、計画シートの見本、実施前の確認事項。

学校の願いと子どもの実態を出発点に、必要な部分を選んで使う参考資料です。実施前の案であり、販売実績や児童生徒の学習成果を示すものではありません。

計画から振り返りまでの例

原資料の標準案は事前 90 分 ×4 回＋販売実践＋事後の振り返り。学校の時間割に合わせて検討します。

場面	子どもが考えること・残す記録
事前 1 目標・相手・商品	自分たちの願いと相手の望みを考え、商品やサービスの候補を比べる。
事前 2 原価・仕入れ	価格だけでなく、品質、数量、送料、届く時期を比べ、選んだ理由を残す。
事前 3 販売計画	売上と費用を分けて見積もる。目標に必要な金額と、残る金額の見込みを比べる。
事前 4 準備・練習	POP や役割を考え、質問・売れ残り・意見の違いなどをロールプレイする。
販売実践	相手の反応、売れ方、自分たちの動きを記録し、必要な変更を相談する。
事後の振り返り	計画と結果を比べ、選んだ理由、協力したこと、次に試したいことを残す。

導入だけを扱う場合は、仕入先を比べる 1 コマなどを選びます。販売まで行う標準プログラムとは扱う範囲を区別し、学校と相談します。

こども版・計画シートの例

架空の条件：原価 120 円の商品を 300 円で 20 個販売。費用は原価だけと仮定した計算例です。

誰に、何を届けたい？	相手・喜んでほしいこと・商品候補：
条件を比べて選ぼう	仕入先や方法・選んだ理由・気になること：
売上と費用を分けよう	売上見込み $300 \text{ 円} \times 20 \text{ 個} = 6,000 \text{ 円}$ 原価合計 $120 \text{ 円} \times 20 \text{ 個} = 2,400 \text{ 円}$ 残る金額 $6,000 \text{ 円} - 2,400 \text{ 円} = 3,600 \text{ 円}$
やってみたら、どうだった？	計画との違い・変えたこと／変えなかったことと理由・次に試すこと：

実際には送料・包装・会場費など必要な費用も加えます。売上金の扱いは主催者等と事前に決定。売れた金額だけで学びを評価しません。

学校と相談して決めること

先生の願いと子どもの実態に照らし、実施する内容・条件・役割を一緒に確かめます。

学校が確認・判断すること	学習目標、教育課程上の位置付け、指導・評価、参加配慮、実施可否、校内・設置者の必要な手続。
吉田と相談する分担	教材の下書き、協力者・会場との調整、進行、記録整理。支援範囲・日程・費用を事前に合意する。
実施前に決めること	標準は非食品。会場の販売条件、安全、緊急連絡、現金・費用・売上の管理、写真等の扱いを確認する。
学びの見取りと参加方法	選んだ理由や振り返りを重点に沿って見る。接客以外に、記録・制作・観察などの役割も用意する。

文部科学省「小・中・高等学校等における起業体験推進事業」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/detail/1374260.htm

文部科学省「中学校・高等学校キャリア教育の手引き」（2023年3月）

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/detail/mext_00010.html

手引き等を参考にした独自資料です。文部科学省の公式様式ではありません。

[詳しい原資料（全18枚）をPDFで読む](#)

[原資料のPowerPointを開く](#)

必要に応じた伴走・相談：toimanabi.com/services.html